

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成23年10月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は9から3に減少。「減少した」業種は1から5に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は10のまま変化なし。「減少した」業種は12から11に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は2のまま変化なし。「悪化した」業種は15から13に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は8から6に減少。「減少した」業種は7のまま変化なし。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は8から6に減少。「減少した」業種は16のまま変化なし。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は2から3に増加。「悪化した」業種は24から20に減少。

製造業

しよゆめ製造

【県内全域】

10月1日から、輸入麦の政府売渡価格を平均2%引き上げ。今月4日には18%引き上げられた。

10月からの5銘柄の平均売渡価格は現在の1t当り56,710円から、57,720円に値上がり。

漬物製造

【県内全域】

近年の異常気象の影響で、農作物の収量に変化が生じ、収益状況が悪化している。

豆腐製造

【県内全域】

気温が高い日が続いていて、揚げ物の需要が伸び始めている。

めん類製造

【県内全域】

今年度2回目の原料小麦粉値上げが発表。1回目の大幅値上げの時に改定できなかった組合員もあり、今回は上げ幅こそ小さいものの、交渉は難航が予想される。

製材

【県内全域】

新設住宅着工戸数が増加。

製材

【木更津】

ロシア材が関税等で割高であり、関東近隣から一部国産材を陸送して代替している。米材、南洋材は長距離輸送なので、大量に一船当たり、搬入される。一船あたり、割安にな

るので、北海道、千葉、関西等3か所等相積みで輸入することが多い。

印刷

【県内全域】

顧客の業容によりプラスチックはまだら模様。6月のインキから始まった資材等の値上げですが、10月からの用紙の値上げが需要の減少により足踏み状態。

電気鍍金

【千葉】

10月に入り、幾分受注量等が増加したと思ったら、月の中頃より急速に下落してきた。全体的には昨年同期比で86%。今後年末を控えて受注等がどうなるかと懸念。

鉄工業

【千葉】

当組合が年2回、独自に実施している事業所動向調査によれば、元の景気動向は弱含みの推移に転じる結果となった。調査結果の特徴として30%を超える企業が「円高によるマイナス影響あり」としており、景況悪化の最大要因になっている。

機械部品製造

【野田】

円高が続く、海外生産への移行を模索している状況、空洞化不況の兆し。円高、株安状況で受注減、海外シフトへの研究・視察・見学会等が増えている。

機械部品製造

【流山】

半期の在庫調整により受注に影響

響が出ている。円高について政府の
早急な対応を求める。

【機械部品製造】

外部要因によるマイナス景況の
中、タイの大洪水による日本企業操
業廃止の影響がマイナスの減退につ
ながっている。

全体的に、上記の要因により、中
間期より通期マイナス決算となる大
手に伴い、中小企業の環境は更に厳
しくなると思われる。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】
【文具卸】 クリスマス向けファン
シーグッズの出荷が始まる。

【家電卸】 暖房用品の出荷が例年
に比べて早く、9月後半から始まっ
ている。エコ家電の扱い増加。

【酒類卸】 夏場を過ぎてビール飲
料の出荷減少。ノンアルコール飲料
は前年比増加傾向。

【米穀卸】 23年米出揃うが、放射
線影響で千葉県産米の入荷少ない。
また東北産米敬遠されがち。

【食肉卸売】

依然として関東地域で生産され
た牛肉・豚肉の価格が低迷。

【建築材料卸売】 【県内全域】
回復感はないが悪くも無い状況。

つかの間の小康状態。典型的内需産
業のため円高は製造コストではメ
リットの方が大きいが肝心の需要が
先行き懸念。

【自動車解体業】

【県内全域】
新車製造の回復により、市場に
出回る解体車も少し上向き。円高
による中古部品輸出とスクラップ価
格下落あり。トータルとしては、上
向きになっていない。

【乾物卸売】

【県内全域】
生産状況は、種付けが終わり、
育苗後冷凍庫への入庫作業が始ま
り、海況の好転待ち。放射能問題
への対応について、業界としての指
針を策定し、各関係者と連携し万
全を期すよう進めていく。

【小売】

【相】
寒さに向かい、コート等の高額商
品の売上を期待したいが、動きは鈍
い。

【電気機器小売】

【県内全域】
大変な状況。売上が半分以下に、
悲鳴があちこちから聞こえてくる。
メーカーも軒並み悪い模様。

【青果小売】

【千葉市他】
相場が下がり、売りやすい状況
となったが、利益増には至らなかつ
た。その為、前月・前年を共に割り
込み、在庫が増えてしまった。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】
欧州経済危機による円高基調と
景気減速感、新車供給増加による
需給バランスの変化により、成約率
の低下傾向とそれに伴う出品増で
推移。年末に向け、輸出の停滞や
売り先行基調に要注意。

【小売】

【東金】
秋物需要が弱かった。後半、やつ
と従来の秋の気候になり、少しずつ
購買行動が活発になってきた。その
中でも、食品関係は健闘している。
ファッション関連品は、厳しい状況
が続いている。

【小売】

【野田】
気温が下がり、秋物衣料の売上
が伸びたが、前年実績には届かな
かった。明るい材料が見込めず、引
き続き厳しい状況が続く模様。

【印鑑小売】

【県内全域】
11月1日より、年賀状が発売さ
れ、いよいよ年末商戦だが、年賀状
印刷が大幅に減少。

【小売業・サービス】

【銚子】
震災後、1ヶ月ほどは震災関連
商品（スコップ、石油ストーブ等）
が動いたが、その後は少しずつ悪く
なってきた。

【建設揚重】

【県内全域】
建設関係の需要が増え、前月よ

り稼働率は上昇傾向である。

【害虫防除】

【県内全域】
今年度、害虫駆除及び相談件数
が減少した。

【一般廃棄物処理】

【千葉】
前月比並びに前年同月比とともに、
若干ですが良い状況。

【土木建築サービス】

【県内全域】
震災関係予算の影響が見通せず、
前月と特に変化はない。

【建設業】

【県内全域】
当連合会加入組合員の受注額は、
前月比3, 424百万の減少となつ
た。これは、例年の流れと同じであ
り、前年同月比では、同額となつて
いる。9月に受注した工事の効果が
出るのはこれからであり、期待して
いる。

【貨物運送業】

【野田市】
秋の農作物の代表である米の運
搬が昨年に比べ非常に多かった。量
的な増加というより、県内から他
県への輸送が増加したのが要因であ
ろう。しかし、総物流量を考えると、
減少している感があるため、楽観
視できない。

【輸出入業】

【県下全域】
震災原発事故後、対前年比は減
少維持、回復基調（約90%）にあ
るが見通しが立たない。